

新型コロナウイルスが教えているもの

校長 宮本 歩

一年前の十二月に、やはりこの「若樹」の原稿を考えていた。その時点では、風の噂に「中国の武漢で訳のわからない伝染病が発生しているようだ。」という話が広まりつつあった。「新型コロナウイルスの感染の始まり」だった。まさか、数ヶ月後に全世界を巻き込むパンデミックが起こるなんて思いもしなかった。

もちろん、西中もその被害にさらされた。三月初めから、学校は臨時休業となり、卒業や、進級を控えた生徒たちにとどのような精神的な変化をもたらすのかと、大変心配だった。しかし、緊急事態の中でみなさんは「正確な情報をもとに、自分なりに危険を察知し、やるべきことをやる。」という難しいお願いに、しっかりと応え、「自分の命を、大切な人の命を一人一人が責任を持って守る。」ことを実行した。急な行事や日程の変更が次々に起こる中で、世の中の暗いムードも明るく笑顔で吹き飛ばす力を見せてくれた。西中生の底力は本当に素晴らしいと感心している。ありがとう。

未知のウイルスの発生と、感染拡大という自然界が生み出す大きな力の前では、何と人間は非力な生き物なのだろうか。当たり前のように学校・仕事・買い物に出かけ、あたり前のように次の日の朝を迎える。休みの日には、遊びや旅行に何の心配もなく出かける。そのことがとても大切なことだと感じた。「人と人との接触をできる限り避ける。」「思ったことができなない。」「緊張状態の中で、人々はときに自分勝手になり、嘘の情報で生活が混乱させられたり、差別的感情が表面に表れてしまう。そのような状況下では、信じられる「自分の信念」が有るか無いかは、やはりとても重要である。新型コロナウイルスの感染拡大により各国が「医療崩壊」に直面し、「巨大都市が封鎖」され、「経済活動がストップ」し、世界中で毎日のように、コロナウイルスによる死者が数千人ずつ増えていく。あの悪夢のような数ヶ月から、日本人は何を学んだのだろうか。感染拡大を食い止めたような錯覚に陥った後は、「今は何をすべきか」を忘れてしまったようにも見える。

今回のような未知のウイルスの急激な感染拡大を引き起こす原因を作ってきたのは、産業革命以来、発達し続けた交通機関や経済活動が生み出す、全世界を行き来する人や物の動きの広がりであることは間違いない。数千人が一つのクルーズ船で旅をする。数時間で世界中のあらゆる国へと移動できる。この人の動きはある種の異常事態だったのでないかと考えさせられる。一方で、経済がストップした昨年の春は、自然はとても美しく輝いていた。過去の事実を振りかえると、コロナウイルスで毎日亡くなる人の数よりも、地域紛争や、大きな戦争で亡くなる人の数は、遙かに多かった。人間の愚かな行動は、地球上のあらゆる生物に、そしてこの美しい地球にコロナウイルスより遙かに大きな被害をもたらすことも忘れてはならない。人間の愚かさを悲しく思うとともに、改めて、「命の大切さ」を思う。

昨年度の「若樹」に私が書いた内容をもう一度読み返して欲しい。「若いみんなの感性で、あたり前に見える世の中の出来事に対する感覚を一度リセットして、本物（本当のこと）は何か見抜いて欲しい。」とお願ひした。このコロナ禍のもとで、身のまわりで起きている政治の動き、経済活動の動き等と、その中で悩み、苦しみ、命をかけて最前線で戦っている人たちの思いとの乖離が、これほどはつきりと現れた年はなかったと思う。

ここから数年間で目にすること、感じることは、みなさんの人生に大きな影響を与えてくれるはずである。是非将来の生活に生かして欲しい。自分なりの信念を持って、みなさんがこれからの地球、そして人類の未来をどのように変えていくのか、楽しみである。私も残りの人生で精一杯頑張っていきたい。